

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0673000683		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームみかわ		
所在地	山形県東田川郡三川町大字青山山字箧元22-1		
自己評価作成日	平成24年 8月 15日	開設年月日	平成17年 9月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの事業所は「笑顔で寄り添い会話を楽しみ共に穏やかにくらす」「喜び生きがいを感じながら安心してくらす」「地域とのふれあいを大切にしてくらす」を介護理念に掲げご利用者様が歩んでこられた人生や思いに寄り添い、人生の先輩として敬う気持ちを持ちながら常にご利用者様の立場に立った支援を心がけております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	行政書士協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24 年 8 月 9 日	評価結果決定日	平成 24 年 9 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開業したこの事業所は、地域密着型事業所としての理念を踏まえ、利用者が慣れ親しんだ地域の中で暮らし続けられるよう、地域との関わりや家族との繋がりを大切にしながら、利用者1人ひとりについて個別ケアの実践に取り組んでいる。開業から7年が経過し、地域との交流は活発で、地域の子供達を事業所に招待し交流を図ると共に、地域の行事に積極的に参加したり、自主防災組織に加入する等、多方面にわたり双方向的な交流が行われている。また、管理者及び職員は、常に利用者や家族の視点に立って考え、サービスの振返りや理念の見直しを図りながら、状況に応じたニーズを把握し、本人本位に検討している。法人としても研修制度の充実を図ると共に、資格取得を目指す職員への環境作りに配慮しており、質の高いサービスの提供に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として暮らしていく事を目指す理念を掲げ、職員の意思統一が図られるように壁に掲示しています。朝礼時に参加職員一同で唱和を行っています。	「笑顔で寄添い会話を楽しみ共に穏やかにくらす」、「喜び生きがいを感じながら安心してくらす」、「地域とのふれあいを大切にしてくらす」を事業所の介護理念として掲げ、玄関等に掲示する他、朝礼の際に唱和することで、理念の意識付けや職員間での共有に努め、理念の実践に繋げている。尚、理念についての振り返りや見直し等についても毎年取り組んでおり、「会話を楽しむ」ことを追加する等、事業所が目指すサービスのあり方を常に検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の祭り、地区の運動会、小学校の相撲大会、学校祭に毎年、招待して頂いており、参加しております。地区子ども会と流しそうめんをして交流したり、普段から子どもたちが事業所に入りやすいように行っています。	日頃から野菜や果物の差し入れ、利用者の散歩コースにある住民が庭先に休憩のための長椅子を設置してくれる事等、管理者は、地域住民の優しさや事業所への理解に深く感謝している。地域との交流は活発で、「プチ縁日祭」には、地域の子供達を事業所に招待し交流を図ると共に、地域のお祭り等にも積極的に参加したり、地元和学校祭にも招待される等、双方向的な交流が行われ、利用者と地域との触れ合う機会が多い。また、町内会、地域の自主防災組織にも加入しており、地域の一員として、活動や役割を積極的に果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域代表者へ事例を基に情報を発信しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所の活動内容や利用者の状況等を報告し意見として出された検討課題については次回までに検討あるいは改善した内容を報告し、皆さんの意見を活かすように努めています。</p>	<p>町職員、利用者及び家族代表、町内会長等の参加を得て2ヶ月に1回開催されている。会議では日々の利用状況や外部評価結果、事業所で実施したアンケート結果について報告する他、疑問や要望に対して真摯に対応している。会議の内容はユニット会議等で職員に周知し、情報の共有に努め、サービスの向上に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター運営協議会へ加入しており、連携を図っております。三川町主催の勉強会へも参加しております。</p>	<p>年2回開催される地域包括支援センター運営協議会への参加や利用者の介護認定調査等、あらゆる機会を活用し、町との情報交換を行い、連携を図っている。また、個別具体的な問題や困難事例については、その都度電話等で連携を図り、協働して課題の解決を図っている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会を設置し、委員が中心となって勉強会を実施しております。月1回身体拘束廃止チェックシートを記入し、身体拘束を行わないケアの実践について職員の意思統一を図っております。</p>	<p>研修会を実施し身体拘束をしないケアについて学び、身体拘束の具体的な行為やその弊害について全職員に周知している。また、身体拘束委員会を設置しマニュアルを整備すると共に、毎月身体拘束廃止チェックシートを記入し防止に努めている。離設したがる利用者については否定せず原因を分析し、寄り添い、見守りを強化する等、拘束を行わないケアを実践している。尚、同法人のグループホームがお互いの事業所をチェックする体制も構築されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の内部研修において、虐待防止法の概要や対応、虐待事例を学び、虐待防止に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居されている利用者の事例を通して勉強の機会を設けています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書を基に、利用者や家族の疑問や不安を伺いながら説明、納得して頂いた上で契約しております。解約時には、家族と十分な話し合いを持ち、納得して頂いた上で手続きを行っております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は定期的に家族へ送付するアンケートより回答を頂いたり、面会時に直接意見を伺っております。	意見箱を設置する他、面会時には意見を言い易い雰囲気作りや環境作りに努力している。また、アンケートを実施する等、家族等が管理者及び職員に気兼ねなく意見を言い表せる機会を提供し、忌憚のない幅広い意見の把握に努めている。出された意見は運営推進会議で報告する他、ユニット会議等で職員に周知し情報の共有に努め、運営に反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングで意見や要望を聞く機会を設けております。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、面談の他、ミーティングでは個々の目標を発表する事で意識を高めるようにしております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に出来る限り、参加するよう努めております。</p>	<p>研修委員会を設置し、外部研修、法人内研修、内部研修と多様な研修の機会を確保し管理者及び職員の質の向上に努めている。外部研修に参加した職員は復命書を提出する他、会議等で職員間での共有に努めている。また、法人としても介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指す職員への環境作りに配慮しており、事業所のレベルアップに繋げている。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>県のグループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との情報交換を図る事によって、サービスの向上に努めております。</p>	<p>町主催の勉強会等を通して、他事業所との情報交換を行う他、山形県グループホーム連絡協議会に所属しており、会議や交換研修、利用者交流会等、他事業所との交流を深めている。また、同法人のグループホーム同士の交流も図られている。</p>		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談で情報を頂き、ご本人の気持ちに寄り添い安心して生活して頂けるよう努めております。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、家族との現在の状態に至るまでの過程、生活状況、今困っている事、不安等の相談内容を伺って情報を得ながら信頼関係を築いております。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	書記の相談時にご本人、家族の置かれている現在の状況を聞き取りし、介護、医療の多種のサービス活用を含めた支援を検討、提案しております。必要時は他サービスへの照会をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者においては共同で生活していく事を基本に、それぞれの生きがい、役割、出来る事を行いながら自分らしく生活できるようサポートし、お互いの信頼関係を築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が担当利用者の生活状況を家族に報告したり、家族対応の受診の際には担当者が、主治医へ前回受診後の生活状況等の文章を作成し、家族に渡す事でスムーズな受診対応が出来るよう支援しております。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容室との連絡や気軽に面会できるような環境作りに努めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内外での活動参加や日常生活の中で、お互いのユニット間での利用者の交流ができる機会を作り、互いに支え合う関係を築けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も医療機関や他施設、他サービスの情報を提供し、介護サービスが途切れずに提供できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新月の前月にアセスメントを実施し、利用者の思いや希望、意向の把握に努めております。	家族や関係者からの情報も参考にしながら、基本情報を基に利用前の生活歴や環境等について把握している。また、センター方式アセスメントを活用し、本人の「できること」「本人の思い」などを詳細に把握しながら、日々のケアで寄り添い、会話の中から意向や要望の把握に努め、意思表示が困難な利用者については表情や仕草等から要望を汲み取り、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で把握できなかった細かい生活歴や長年の暮らし方、生活環境、介護が必要となった経過等を家族から情報を得ながら把握に努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の希望、好み、心身状態を把握してそれぞれの一日の過ごし方、暮らし方を考えながら実施しております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を更新する時は介護職員、ご本人、家族、他関係者等との会議の場を設けて、それぞれの意見やアイデアを考えながら現状に即した介護計画を作成しております。	毎月モニタリングを行い、特に状態の変化がなければ6ヶ月毎にプランの見直しを行なっている。その際、カンファレンスでの職員の気づきやアイデア、サービス担当者会議で出された家族の意向や要望等、総合的に勘案し作成している。また、利用者の状態が変化した場合はその都度見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、介護の提供についてを介護記録に記入し、情報の共有や介護計画の見直しに活かされるよう実施しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や地域の理容室への外出、その他地域資源を把握し、地域と共に暮らしていけるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な通院や、通院が難しい時は往診サービスを受けております。主治医の診察を定期的に受けられるように支援しております。	利用者の状態や家族の希望等を優先しかかりつけ医を選択できる。通院は、原則家族にお願いしているが、状況に応じて通院介助や往診の対応も行っている。受診や往診の際には、日頃の暮らしぶりや状態を記録したものを情報提供し、受診結果等については記録に残し、医療関係者、事業所、家族間の情報の共有に努めている。今後は、より正確かつ詳細な情報の共有を図る為、家族への報告日等も含めた書類の整備も検討している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療についての相談は看護職員と相談し、対応方法や適切な助言を受けております。利用者が適切な受診、看護を受けられるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は病院関係者より情報を得ながら退院後の復帰がスムーズに実施出来るよう連絡調整を行っております。入院治療が引き続き必要な場合は、定期的に病院関係者と連絡を取り合う事で状態を把握しています。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアについては事前に家族、主治医との話し合い、終末期に向けたケアの方針、対応について協議して必要な支援を行っております。</p>	<p>看取りや重度化した場合の指針を作成し、早い段階から本人、家族等に説明している。管理者は、看取りについて利用者や家族からのニーズが高まっている現状を踏まえ、その重要性や必要性を認識しており、法人や職員間での話し合いを重ね、職員教育や医療関係者との連絡体制の構築等の体制整備を図っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時のマニュアルを作成し、必要時はマニュアルに添って対応しております。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通年避難訓練、緊急招集訓練を実施しております。今年より水害時の避難訓練を実施しております。	避難訓練は年2回、消防署等の協力を得て行う他、水害を想定した訓練や召集訓練等実践的な訓練も行っている。また、地域の自主防災組織にも加入し、会議や町の避難訓練にも参加する等、地域での防災体制を確立している。尚、昨年の大震災を機に、防災グッズ、食糧の備蓄等の見直しを図り、有事の際に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格や生活歴を把握し、利用者のBPSDに合わせた声掛け、支援を行っております。	日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて職員に周知し、利用者一人ひとりに合った声かけを心掛けている。特に入浴や排泄の際には、羞恥心に配慮し、さりげない声かけや対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において自己主張や選択による自己決定が図られるような声掛け、対応等を行っております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅や前施設での生活習慣、一日の過ごし方についての情報を把握し、出来る限り希望に添った生活が出来るように支援しております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活習慣で自分らしい身だしなみや外出時のおしゃれが出来るよう支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度を好む方、希望される方には食事の盛り付けや下ごしらえ、片付け等を介護職員と一緒にしております。	食事は法人で作成した献立を基に、利用者の希望を取り入れ、畑で収穫した野菜、地域の方から差し入れられた食材等、地元の旬な食材を利用しながら3食ともキッチンで調理し、提供している。また、利用者の状態に配慮しながら、食事の準備や後片付け等、食の一連の過程に参加し役割を担ってもらうことで、利用者の自信や活力に繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を記録して職員全員がその情報について把握しております。利用者の状態に合わせた食事形態を提供しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけを行い、出来ない部分については介護職員がサポートしております。夜間は義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔保持に努めております。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンに合わせて適時に声掛け、誘導を実施し、トイレでの排泄を支援しております。	利用者毎のチェック表を活用することで水分摂取量や排泄リズムを把握し、適切な声かけを行い、出来る限りトイレでの排泄支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の利用者には主治医より下剤を処方して頂き、主治医の指示のもとに適切に対応しております。毎日定期的な運動を実施したり、食事面での工夫をする事で出来る限り自然排便が出来るよう支援しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様のお風呂の習慣や入浴の希望に出来る限り対応しております。入浴時間や希望、体調に合わせて臨機応変な対応を行っております。	利用者の希望や状態に応じて臨機応変に対応を図りながら、声かけや入浴の順番を工夫し少なくとも週3回程度は入浴の機会を確保し清潔保持に努めている。また、時には入浴剤を使用する等、利用者は木の温もりが感じられる浴室でリラックスしながら入浴を楽しむことができる。尚、リフト浴にも対応しており、身体機能に不安がある利用者でも安全かつ快適に入浴することができる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が休みたい時に休んで頂いております。夜間、不眠を訴えられた時は話を聞いたり、飲み物を提供したりと精神安定に努めております。夜間はいつでも水分補給できるよう枕元にボトルを置いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋より薬の作用や副作用等を確認しております。薬の変更等あった時は申し送りノートへ記入し、各職員が把握できるように実施しております。服薬時には必要に応じて薬を手渡したり、直接口に入れて介助しております。また、職員間で服薬チェックを実施しております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意な事、好きな事や発揮できるような活動参加の声かけを行い、達成感を得られるよう生活意欲の向上に努めております。ユニット間での交流も自由に行えるよう支援しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じられるような行事等を計画したり、天気の良い日にはドライブや外出出来る機会を設けております。また、個別に買い物や散髪の外出支援を行っております。	利用者の希望や状況を勘案し、季節に応じた花見や海岸ドライブ、お祭り見学等の外出支援を行っている。また、スーパーへ食材の買い出しや散歩、敷地内での外気浴等、普段から戸外で過ごす機会を確保し、利用者の気分転換を図っている。尚、家族の協力を得てお墓参りや一時帰宅等、個別の希望にも対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出来る方、ご家族より希望があった方については個人で管理しております。通院、外食、買い物時はご本人より支払いしております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話でのやり取りについてはその都度、対応しております。家族や昔からのなじみの方々との交流が途切れないように心がけております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節間のある花や手作りの物を飾ったり、外出した時の写真、おたより等を掲示して利用者との話題づくりに努めております。	トイレや浴室等、共用空間の至るところで清掃が行き渡っており、清潔感がある。リビングは広く開放的で、利用者の写真や季節の飾りつけ、台所の調理の音や匂い等が家庭的な雰囲気を演出している。温湿度も一日に3回計測し、快適に保っており、利用者はテレビの前のソファ等、思いおもいの場所で居心地良く過ごす事が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で休んだり、くつろぎたい方は自分の居室で過ごされたり、顔なじみの利用者同志でくつろぎたい方はソファで一緒にテレビを見たり、共同生活スペースを有効活用して居場所作りが出来るような椅子、テーブルの配置を行っております。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持参して頂き、その生活スタイルに合わせて使いやすいように配置しております。	利用前の環境とのギャップを感じる事がないよう、鏡台や布団等利用者それぞれが使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらう他、誕生会や家族の写真等が飾られ、家庭的で温かみがあり、利用者は安心して居心地良く過ごす事が出来る。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が把握しやすいようにのれんをかけたリ、大きい字で見やすいように自室を表示する事で安心して生活が送れるように環境整備に努めております。			